



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和2年7月1日

第4号

「動」と「静」のある、朝の^{まなびや}学び舎

～^{していどころ}師弟同行の「朝の読書」から～

校 長 服部幸司

本校では、毎朝8:20～8:30の10分間、朝読書を行っています。この取組は、現在多くの中学校で当たり前のように行われており、市内でも15年以上前から定着している学校がほとんどのようです。



朝、登校後8:20の各教室を訪れると、一人一人が真剣に本を読んでいます。担任の先生も、教室の「前」か「後ろ」か、「座る」か「立つ」か、それぞれの流儀はあるようですが、^{していどころ}師弟同行、一緒に読んでいます。

1988年、千葉県の2人の高校教師によって始められ、全国の小・中学校にも広がったのが、全校一斉の『朝の読書』です。苦悩する生徒たちを何とか救いたいと、心労の中思いついたのがこの取組だそうです。

しかし、今『朝の読書』四原則である「みんなでやる」「毎日やる」「好きな本でよい(但し、雑誌やマンガはダメ)」「ただ読むだけ」の意味を十分に理解しないで、取組がマンネリ化している学校も全国にはあるそうです。

本校では、定期テスト前の部休期間はテスト勉強も可としていますが、多くの生徒が朝読書に^{いそ}勤しんでいます。本を読むことによって、心を落ち着かせようとしているように見えます。

朝練習は、まだ再開されていませんが、2学期には各部活動で仲間とともに声を掛け合い、思い思いにエネルギーを発散し、活気に溢れる朝になるに違いありません。そして、8:10になると、校庭や体育館からサーッと生徒の姿、声は消え、8:20には生徒474名が本当にいるのだろうか、と思うくらいの静けさが校舎を包むことでしょう。



たとえ10分間でも毎日続けることが、生徒を読書好きにさせ、豊かな心を育てていると実感しています。そして、人としての根っこを育てることが読解力などの学力向上、とりわけ、「学びに向かう力、人間性等」の育成に効果があると考え、今後も鴻巣西中学校は『朝の読書』に取り組んでまいります。